

### 3. 日本歯科医史学会のあゆみ

西巻 明彦

日本歯科医史学会理事

日本歯科医史学会は、昭和7年9月と昭和8年10月に社会歯科学雑誌を「日本之歯界」の臨時増刊として出され、昭和9年5月3日社会歯科医学会が設立された際に歯学史研究もその中に入っていたことが始まりと言われている。

戦後も長い間歯科医学史研究団体はありませんでしたが、昭和41年11月7日、山田平太先生、今田見信先生を中心に歯学史集団会の発起人会が行われた(湯島会館)。当日の出席者は山崎清先生、高木圭二郎先生、榊原悠紀田郎先生、谷津三雄先生で、欠席者は瀬戸俊一先生、杉本茂春先生でした。第1回の例会は昭和42年1月28日に日本大学歯学部大学院小会議室で14名出席のもと開催されました。当日の演題は山崎清先生の「33年間歯学史を講じて」、山田平太先生の「世相と歯科料金」であった。この例会は月1回、現在まで継続し、平成29年3月で第446回を数え、日本歯科医史学会の特徴となっている。

しばらくは歯学史集団会のまま継続したが、昭和48年正式に日本歯科医学会の分科会となったのを契機に日本歯科医史学会が発足、10月27日に山田平太会長のもと、第1回日本歯科医史学会総会及び学術大会が東京医科歯科大学にて行われた。演題数18、会長講演は山田平太先生の「口中科の歯冠修復術について」、特別講演は埴原和郎先生による「人類における歯の進化」であった。昨年は坂下英明会長(明海大学)のもと第44回総会が行われ、一般演題27題であった。なお、理事長は初代鈴木勝先生、2代谷津三雄先生と続き、現在は3代渋谷鑛先生である。また会則は昭和43年3月1日に制定されている。

機関誌は昭和44年2月創刊の『歯学史研究』から昭和48年に『日本歯科医史学会々史』と改

称されたものの、平成29年3月まで第31巻4号(通巻121号)まで続いている。第1巻第1号の冒頭を飾るのは緒方富雄先生の「蘭学誕生—解体約図のこと—」でありました。

学術大会は歯学史集団会であった昭和43年度にはすでに行われており、現在までに日本歯科医史学会発足後44回を数えている。特筆すべきは他学会との合同学術大会で、現在までに日本医史学会と5回、日本薬史学会、蘭学資料研究会ともそれぞれ1回ずつ行われている。中でも鈴木勝会長のもとに行われた第70回日本医史学会、第11回蘭学資料研究大会、第2回歯学史集団会総会は、小川鼎三先生により「今も濃い印象が残りますのは昭和44年の70回総会を会長鈴木勝氏、副会長今田見信氏のもとで日本大学歯学部の大学院講堂にて開いたときのことであります。学生運動の激しいときで会場の近くで騒動がおきましたが、主催者側の御尽力で一糸も乱れず成功裡に総会を終えることができました。」と述べられている。昭和55年には日本最初の医歯薬合同総会(学術大会)が行われた。第8回日本歯科医史学会総会(理事長鈴木勝先生)、第81回日本医史学会総会(理事長小川鼎三先生)、第25回日本薬史学会総会(会長木村雄四郎先生)と同時開催で、第81回日本医史学会総会(会長鈴木勝先生)と呼称し、日本大学歯学部大学院講堂で、昭和55年10月11日、12日行われた。日本医史学会総会との合同は、その後、平成4年6月5日、6日、谷津三雄先生が合同会長として、第93回日本医史学会総会、第20回日本歯科医史学会総会が、日本大学会館で開催された。10年後の平成14年には第104回日本医史学会総会・第30回日本歯科医史学会総会が合同会長中原泉先生のもと、9月28日、29日

に日本歯科大学新潟生命歯学部で行われた。近年では平成25年5月11日、12日に第114回日本医史学会総会・第41回日本歯科医史学会総会が日本歯科大学新潟生命歯学部で筆者を合同会長として開かれた。

対外的には第71回FDI年次世界歯学大会が、昭和58年11月14日～20日の会期でアジアで初めて日本で開催された。会期中に長谷川正康先生による「日本における木床義歯の歴史」の講演が行われ、好評を博した。また、大会開催中の16日～18日の3日間にわたり、本学会主催として「日本の歯学史展」が併催行事として展示が行われ、木床義歯、お歯黒、楊枝、古医書が供覧され、3400名の参観者があった。同時にこの展示をまとめた20ページの『DENTAL HISTORY IN JAPAN』が配布され、五カ国語対応で、カラー写真入りであり、外国人参観者に絶賛された。木床義歯は世界で最古の粘膜吸着式義歯で、外国人からの質問も多く、帰国した外国人の数十名からも、メールの無い時代、問い合わせの手紙が送られ、大成功であった。このように日本の歯科医学史を世界に広めた点は、日本歯科医史学会史上貴重な出来事であ

った。現在でも日本歯科医学会の英文誌で、日本の歯科医学史の論文の発表が行われている。

教育面では、学会発足以来の学生教科書の作成への貢献が行われているが、近年では歯科医師国家試験に医学史、歯科医学史の出題があり、そのための行政への提言も進めている。また情報機関や各団体への情報提供も行っており、ホームページや学術雑誌のweb化も実施している。

現在の日本歯科医史学会の会員数は、平成29年3月で522名であり、事務局は日本大学松戸歯学部歯科麻酔学講座内におかれている(〒271-8587千葉県松戸市栄町西2-870-1)。理事長渋谷鑽先生(日本大学松戸歯学部部長)以下、理事17名、監事2名、顧問5名、評議員33名、名誉会員2名、編集委員4名の役員構成となっている。日本歯科医史学会は歯科領域にとらわれず、医療全般、倫理学、社会学、地理学、文学、経済学、人類学など広範囲にわたる研究発表が行われている。

平成29年の第45回日本歯科医史学会総会は小林繁先生(九州歯科大学名誉教授)のもと、9月30日に湯島ガーデンパレスにて開催される。